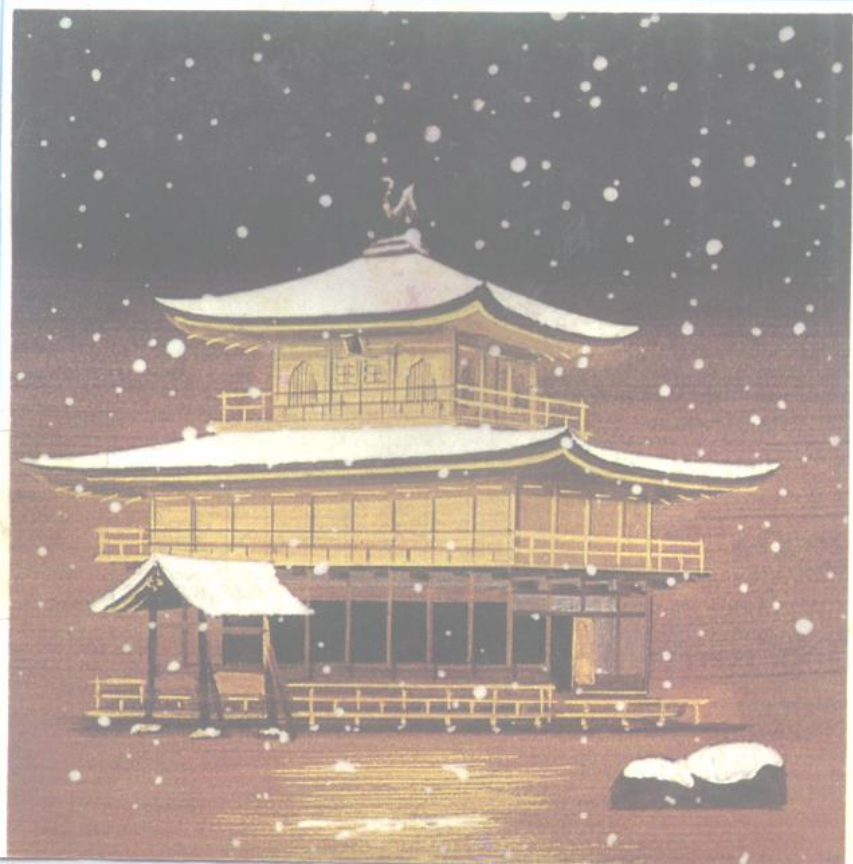


大学四·六级日语 考试指导

— 升学 · 晋级 · 出国资格日语测试

崔 崧 / 编著



● 吉林大学出版社

大学四、六级日语考试指导

——升学、晋级、出国资格测试

崔 峯编著

吉 林 大 学 出 版 社

大学四、六级日语考试指导
——升学、晋级、出国资格测试
崔 崑 编著

责任编辑:李盛洪 封面设计:张沐沅

吉林大学出版社出版 吉林省新华书店发行
(长春市东中华路 29 号) 吉林农业大学印刷厂印刷

开本:850×1168 毫米 1/32 1992 年 10 月第 1 版

印张:12.75 1992 年 10 月第 1 次印刷

字数:316 千字 印数:1—5000 册

ISBN 7-5601-1266-8/G·155 定价:7.50 元

前 言

为在短期内巩固和提高日语学习的整体水平，顺利通过晋级、升学、出国等各类日语考试，结合多年的教学实践，编写了这本《大学四·六级日语考试指导——升学·晋级·出国资格日语测试》。

本书共分十三章，每章由概述和练习两大部分构成。第一章至第四章为语音和词汇的单项篇；第五章至第九章为语法的单项篇；第十章至第十二章为综合应用篇；第十三章为模拟试题篇（包括听力内容）。书后提供有参考答案。

本书有别于一般的习题集和练习集。不仅列举了有针对性的大量习题，而且对外语学习的难点、疑点，特别是容易混淆的问题做了提纲契领、简明扼要的提示，介绍了日语考试中需要注意的常识和技巧。力求解决三个问题，即：1 如何答题，2 为什么要这么答，3 怎样才能加快答题速度。

再者，本书与一般的教科书或语法书又有不同。教科书或语法书由于篇幅及本身的系统性所限，不易包括全部的语言现象。但是这些现象都可能在测试和试题中得到反映，从而弥补了系统学习中可能存在的空白。况且外语是一门实践性极强的学问，必须通过大量做题和反复练习方能逐步掌握。

本书收集了近年来国内外多种语法书，习题集及有关资料，从中分析研究，去粗取精，特别是对《大学日语教学大纲》、历年的全国高等学校入学考试、研究生入学考试、出国人员统一考试的日语试题进行了较为深入系统地探讨和分析，并注意吸收了近年来日语教学的最新科研成果。

本书贯彻由简到繁的原则，主要为参加大学日语四、六级测试、研究生日语入学考试、出国留学人员日语资格考试和科技人员职称晋级日语考试的广大学员和应试者编写的。同时，也可供大中专院校日语教师参考之用。

本书为了方便读者进一步学习，所用资料均注有出处，参照的文献和参考书目亦于书末统一列出，并对原书的作者致以衷心感谢。在本书的编写和出版过程中曾得到吉大出版社、公共外语教研部日语教研室的同志们的大力支持，借此机会一并深表谢意。

本书的问世如能对读者在日语学习方面有所帮助，将是对编者的最大鼓舞和鞭策。由于编者水平和能力所限，疏漏和遗漏之处，在所难免，望读者不吝赐教，以求改正。

编 者

1992 年 4 月 12 日

目 录

第 一 章	汉字的读音·····	(1)
第 二 章	汉字的写法 ·····	(14)
第 三 章	外来语 ·····	(29)
第 四 章	熟语、谚语、惯用语 ·····	(38)
第 五 章	助词 ·····	(51)
第 六 章	副词 ·····	(97)
第 七 章	接续词·····	(113)
第 八 章	敬语·····	(120)
第 九 章	授受关系·····	(136)
第 十 章	综合练习·····	(143)
第十一章	汉译日·····	(187)
第十二章	阅读和理解·····	(196)
第十三章	模拟试题·····	(251)
附录：参考答案·····		(337)
参考文献·····		(399)

第一章 汉字的读音

一、概述

(一) 汉字的读音种类

中日文化源远流长，日语中使用的汉字是公元3世纪由中国传到日本的。1981年日本政府规定现行日语汉字为1945个（常用汉字）。就发音规律来看它可分为两类：1、近似中国发音的读音方法，就是所谓的音读；2、按照日本固有的读法来念汉字，这就是训读。

例如：（音读） ケン カ メン リョ スウ

犬 花 綿 旅 数

（训读） いぬ はな わた たび かず

但是这并不是说每个汉字都有一个音读和一个训读的。既有只念音读的汉字，也有只念训读的汉字。例如“駅、肉、鉄、農、府”是只念音读的汉字，“貝、咲、畑”是只念训读的汉字。

另外有些汉字的读法（音读、训读加在一起）多达六、七种乃至十几种之多。如：“下”读作“カ、ゲ”、“おり、おりる”、“おろし、おろす、くだす、くだし、くだり、くだる、さがり、さがる、さぐ、さげ、した、しも、もと”共计十七种。

在音读汉字当中按其输入日本的先后又可分为“吴音、汉音、唐音”三大系统。因此我们说汉字的读音确实是学习日语的难点之一。

（二）汉字合成词（熟语）

汉字合成词是指由两个以上汉字组成的单词，其中数量最多的是由两个汉字组成的合成词。两个汉字的合成词的读法有以下四种。

1. 音读的单词（音読一贯）
（前一个音读，后一个也音读）
湖水、練習、石炭、倉庫、電波、詩集、風雨
2. 训读的单词（訓読一贯）
（前一个训读，后一个也训读）
育空、野原、月日、切手、手紙、父親
3. 前音后训的单词（重箱読み）
（前一个音读，后一个训读）
毎朝、本箱、台所、地主、職場、銀紙、一割、駅前
4. 前训后音的单词（湯桶読み）
（前一个训读，后一个音读）
雨具、見本、切符、消印、夕飯、荷物、手帳、夕刊

(三) 注意事项

如前所述，日语汉字发音有一定的规律，而且有一些难点。所谓难点，对我们中国人来说，就是日语汉字的读法与汉语发音不同的地方。例如：

1. 日语浊音

我们知道日语辅音里存在着清浊音的对立：如：[p]、[b]，[s]、[z] 等。而汉语除鼻音、边音/r/之外是没有浊音的，只有有气音和无气音的对立。如：[p]、[p'] 等。因此，我们常习惯于用汉语的有气音、无气音来发日语的清音和浊音，造成清、浊音不分。把「痛い」(イタイ)说成「伟大」(イダイ)，把「多才」(タサイ)说成「多罪」(タザイ)等。日语的清音(包括半浊音)浊音有区别词义的作用，而且书写符号也各有差异，切不可混同。

2. 日语长短音

日语有长短音的对立，如「オバサン」是姑姑、阿姨的意思，而「オバアサン」就是奶奶、姥姥的意思了。汉语中长音、短音没有区别词义的作用。受汉语影响，长短音不分的问题是司空见惯的。

另外，长音表記比较麻烦，一般来说「あ、い、う」各段后分别加上「あいう」，「え」段后加「い」或「え」，「お」段后加「う」或「お」，「え」段「お」段的长音虽然有两种表示形式，但是具体的单词只用其一种，我

们必须一一牢记。如「労働」是「ろうどう」，「大きい」是「おおきい」。

外来语的长音是在字母后面加一个长音符号「ー」。

3. 日语促音

现代汉语普通话中没有这种发音。日语促音在发音时要占一个音拍（モーラ）。注假名时加一小“っ”，一定不要丢掉。例如合作（ガッサク）。失败（シッパイ）、さっそく（サッソク）、いたい（イッタイ）。

4. 日语拨音

日语拨音的实际发音虽有好多种〔m、n、ŋ、ɲ〕但符号只有一个「ん」，所以在注假名时拨音的问题并不很大。

5. 发音上的变化

日语中字与字结合的时候，往往要发生语音上的变化，这一点尤其要注意。例如：

納得（ナットク） 手綱（タツナ） 音頭（オンド）
金物（カナモノ） 春雨（ハルサメ） 因縁（インネン）

二、练习

(一) () の中にふりがなを書き入れなさい。

1. 雲 () 一つない青空 ()。
2. 来週 () の土曜日 () に大学の土木工学 () の先生に会います。
3. 池 () には金魚 () が泳 () いでいます。
4. 体 () が熱 () いですね。体温計 () で熱を計 () ってみましょう。
5. 特急 () に乗 () って、新宿 () へ行き、デパートの特売場 () で登山用品 () を買った。
6. 春 () の終 () わりごろ、黄緑 () の花がさき、その花が散 () ったあと、緑色 () の実 () になる。
7. 貨物列車 () から積荷 () をおろす。
8. 本屋 () の店先 () で本を立 () ち読 () みする。
9. 水をむだに使わないことを「節水」() という。
10. この土地 () は果物 () を作るのに適 () している。
11. 牧場 () の向 () こうの森 () には神社 () があり、その向こうに川が流 () れており、川の向こうには畑 () が続 () いている。
12. 毎晩 () 晩 () ご飯 () のあと空 () き地 () へ行って花火 () をやる。
13. 番犬 () に石 () を投 () げたら追

() っかけられた。

14. 的 () をねらって、弓 () で矢 () をいる。
15. 財産 () もほしいが命 () も大切 () だ。
16. 小包 () の包 () んであった紙 () に宝島 () の地図 () がかいてあった。
17. いなかで人家 () が少し集 () まっている所 () を「里」() とか「人里」() とかいう。
18. 動物 () の身 () でありながら、情深 () い心 () を持っている。
19. 三角形 () の内角 () の和は百八十度 () である。
20. 外国 () と物 () を買売 () することを「貿易」() という。
21. 旅行 () して、学校 () では、勉強できない貴重 () な体験 () をした。
22. 風船 () を飛 () ばして、上空 () の様子 () を調 () べる。
23. 米国 () から少年合唱団 () が来日 () し、明日 () 公会堂でその公演 () がある。
24. 経済学 () の大山教授 () は病気 () のため休講 () する。
25. 東京駅で降 () りると、東側 () には大きな建物 () がならんでいる。地下街 () は、名店街 () と事務所になっている。
26. 太田道灌の築 () いた城 () は、江戸 () の海岸 () の松原続 () き の ち ()

- ）にあり。後（　　）に徳川家康がこの城に入って幕府（　　）を開（　　）いた。
27. 東京 9 時発（　　）、新大阪 12 時 10 分着（　　）のひかり 11 号にご乗車（　　）のお客様（　　）は、中央階段（　　）から 17 番ホームにお回（　　）りください。
28. お寺（　　）の中は人影（　　）も無（　　）く石（　　）ひが立っているばかりで全（　　）く寂（　　）しいところだ。
29. 太陽（　　）の照（　　）り輝（　　）く野原（　　）の一株（　　）の野（　　）ばらのそばで快（　　）く昼寝（　　）をした。
30. 坂道（　　）を下（　　）る。
31. 岩石（　　）、草木（　　）、港湾（　　）、家屋（　　）などは似た意味を持つ字の重（　　）なった熟語（　　）である。
32. 松竹梅（　　）の絵（　　）のついた重箱（　　）にごはんを入れる。
33. この紅茶（　　）は古いね、変色（　　）している。
34. 肉眼（　　）で見えない微生物（　　）は顕微鏡（　　）で調べる。
35. 冷蔵庫（　　）で冷（　　）やした、冷（　　）たいビールを飲む。
36. 下手（　　）から子供（　　）を背負（　　）った農夫（　　）が現（　　）れる。
37. 選挙違反（　　）を黙認（　　）してはならぬ。
38. 母子家庭（　　）の子供に限り、入場を許可（　　）する。
39. 勉強（　　）を怠（　　）ってはいけない。

40. 敬語（ ）は尊敬（ ）と謙讓（ ）の言葉を并用（ ）するとき、誤（ ）りを犯すことが多い。
41. 早朝（ ）や夜の遅（ ）い時刻（ ）を除（ ）いて、いつでもおいでください。
42. 炎暑（ ）の折（ ）皆様の御健康（ ）をお祈（ ）り申し上げます。
43. 臨時職員（ ）として雇（ ）われているので、月額（ ）いくらという固定給（ ）ではなく、一日いくらという日給（ ）を月末（ ）にまとめてもらっているのだ。
44. 隣（ ）のへやから焦（ ）げ臭（ ）いにおいがする。寢床（ ）でたばこを吸いながら眠ってしまったのだろう。
45. 車が山路（ ）に差しかかると、まわりの林は、針葉樹（ ）に変わった。
46. さえた鐘（ ）の音（ ）とともに、桜の花びらが散（ ）った、現実（ ）のものと思えない、まるで夢幻（ ）の世界の中のような。
47. この処理（ ）を何回も繰り返すことは単調（ ）で根気（ ）のいる作業（ ）だった。
48. 0メートル地帯（ ）は、満潮時（ ）には水が床（ ）までくる。
49. クラスで芝居（ ）をやろうと思って、シナリオを何冊（ ）か印刷（ ）した。司会（ ）は是非（ ）あなたにやってもらいたい。
50. 実験着（ ）にするのですから絹（ ）のきれでないほうがいい。
51. あの国は貧富（ ）の差（ ）が大きく、中産

- 階級（ ）がない。ほとんどが貧（ ）しいほうに片寄（ ）っている。
52. 交通地獄（ ）という言葉がある。では、自動車が通（ ）らないようにした所は極楽（ ）かということ、そうは言わない。歩行者天国（ ）という。
53. 大きな岩（ ）のかげに隠（ ）れた途端（ ）に火薬（ ）が爆発（ ）した。
54. けがをして外科（ ）病院に運（ ）び込（ ）まれたが、けがは浅（ ）く一週間で全快（ ）した。
55. 夏は湿気（ ）が強く蒸（ ）暑（ ）い。
56. 夏になると、太平洋（ ）から暖（ ）かい湿（ ）った南東（ ）の風を受け、冬は、大陸（ ）から乾燥（ ）した冷たい北西（ ）の風にさらされる。
57. 我が国に鉄砲（ ）が渡来（ ）したのは1543年のことである。日本では戦国時代（ ）でそれ以来、戦（ ）の方法が変わった。
58. 山で遭難（ ）した時米は一粒（ ）もなく、木の芽（ ）や草を食（ ）って飢（ ）えをしのいだ。
59. あの富豪（ ）は戦争を利用し、私腹（ ）を肥（ ）やして、ばくだいな金をもうける。
60. ことわざは、格言（ ）と違って教訓（ ）的でなく、堅苦（ ）しくない。口拍子（ ）に合うので覚（ ）えやすい。
61. 羽田（ ）空港（ ）からは、国内線（ ）の飛行機が発着（ ）する。

62. 野球をやっていて、足をくじいた。見ていた老人（
）に教（ ）わって草をもんで冷やしたら、痛
（ ）みがぐっと薄（ ）らいだ。年長者（
）の知恵（ ）はすばらしいと悟（ ）った。
63. 盗難事件（ ）があり、金を盗（ ）んだと疑
（ ）われて警察署（ ）に出頭（ ）したが、
証拠（ ）がなく、すぐ許された。
64. 朝寝坊（ ）したので遅（ ）く学校に着いた
が、その日は先生も遅刻（ ）した。
65. 結婚する前は、彼女の引力（ ）の強さに驚（
）き、結婚後は彼女の圧力（ ）の強さに恐
（ ）れている。

(二) 次の文の（ ）の中にふりがなを書き入れなさい。

1. 話し合いから生まれる知識（ ）は優秀な頭脳（
）が考え出したものではなく、平凡（ ）な人た
ちが寄（ ）り合って考えたものである。それは、み
んな出し合って作り。みんな納得する知識である。共
通（ ）の知識、すなわち常識である。常識といっ
ても低（ ）い知識ということではない。それは実
生活（ ）において、争（ ）いをさけるのに役
立つ貴重（ ）な知識である。
2. 古来（ ）日本において、外国文化との接触（
）はきわめて盛んであった。古くは中国文化、明治
以後は西洋文化、日本人は主として、文字（ ）に
よって接触し、それによって外国あるいは世界を理解
（ ）してきたのだった。日本人は、好奇心（ ）
がつよく、それにこたえるための書物（ ）はいつ

の時代にも満ちあふれている。

(三) 次の()の中に漢字の読み方を書きなさい。

1. 用件を承()る。
2. 開発工事の影響()が大きい。
3. むだを省()く。
4. 新しく発掘()されたもの。
5. 余暇()を利用する。
6. 実感として強く迫()ってきた。
7. 作文を添削()する。
8. みずから植物を栽培()する。
9. ノートの索引()を作る。
10. 多くの工夫が累積()される。

(四) 次の()の中に漢字の読み方を書きなさい。

1. ようやく春が訪()れた。
2. 互いに健闘を誓()いあう。
3. 学校の環境を整()える。
4. 読書するように勧()める。
5. 機械を操作()する。
6. 率直()に意見を述べ合う。
7. かれの善行を表彰()する。
8. 損害を償()う。
9. 県内に工場を誘致()する。
10. 交通の緩和()をはかる。